

サッカーワールドカップ女子大会が7月20日に開幕！

7月20日、サッカーワールドカップ女子大会がニュージーランドとオーストラリアの共催で開幕した。そのニュージーランドでの開幕戦、ニュージーランド VS ノルウェーの試合で、日本人の審判がその試合を任された。

山下良美主審、坊菌真琴副審、手代木直美副審の3人がタッグを組んで、開幕ゲームを仕切った。山下主審と坊菌副審は2大会連続、手代木副審は3大会連続となる女子W杯の審判員だ。山下良美さんは、昨年行われた男子のサッカーワールドカップの審判としても招集を受けていたことでも話題となった。開幕戦は決勝戦と並んで大切な試合であり、その開幕戦の審判団に日本人3人が選ばれたことは、大変名誉なこと、その技術への信頼度の高さを物語る。女子では日本史上初の快挙だ。

Jリーグが開幕して30年余り、その裾野の広がりから、女子のサッカー人口も増加し、なでしこジャパンと呼ばれる日本女子代表チームは、2011年にはワールドカップ優勝の経験もある。現在なでしこジャパンの世界ランキングは、11位。今回のワールドカップにも出場する。同組には、世界ランキング6位のスペイン、36位のコスタリカ、77位のザンビアが入り、上位2チームが決勝トーナメントに進出する。ランキング通りに進むとなでしこジャパンは決勝トーナメントに進出できるが、スポーツは何が起きるか分からない。この夏は、涼しいところでテレビを通して、なでしこジャパンの応援をするのも一つの過ごし方だろう。決勝戦は、8月20日に行われる。「がんばれ！なでしこジャパン！！」

もう一つ、夏の全国高等学校野球選手権大会が8月6日から西宮市の阪神甲子園球場で開催される。声出しの応援も解禁され、グラウンドはもとより、アルプススタンドの応援も熱い闘いが繰り広げられる。まだ行ったことの無い人は、是非球場に足を運んでほしい。一所懸命取り組む姿勢が人の心を揺り動かす。作り物ではない涙との出会いが感動というものだ。心耕す経験を一つでも多く、青春の糧にしてほしい。

「気付く人になる」

先日の終業式の中で「気付く人になる」という言葉を最後に示したが、もう少し説明を加えておこう。自分がされて気持ちの良いことを他人に施す。それを「思い遣り」という。自分の思いを相手に届けるという意味だ。NHKの「チョコちゃんに叱られる」では、「ポーっと生きてんじゃないよ」と大人が子供のチョコちゃんに叱られている。「大人なんだから、ちゃんと気付けよ！」とも言い換えられる。気付かない人は、他人が自分に対して気を遣ってくれていても、それに気付かず感謝の気持ちを伝えられない。それは、自分が相手に相手が良いことを施していないから、気付かないのだ。逆に、相手への思い遣りのある人は、相手からの気遣いに気づき、ちゃんと感謝できる。その感謝のお互いのやり取りが、お互いへの信頼を醸成する。みんなが笑顔で気持ちよく生活できることにつながる。生活指針の「感謝と笑顔」にも通じる行動だ。「思い遣り」と「気遣い」に同じ漢字が使われていることにも注目したい。また、相手が特定できなくても、例えば、トイレの履物が揃っていなかったら、まっすぐに整える。帰る時、窓が開いていたら閉めて帰る。電気がつけばなしだったら、スイッチを切る。そんなことに「気付く人になる」ことは大切なことではないだろうか。一つ君たちが「気付く人」になっていることを確認する。それは、全校集会の際、「自分の定位置に並んで話をせず待っていたら、集合が早くなり、円滑に進む」ということに気付いているから、あのような集合ができるのだ。周りを見て、今自分はどうかあるべきかを考えて行動することは、社会に出ても役に立つ。TPOを考えることができる大人への第一歩になる。

“We make a living by what we get, but we make a life by what we give.”

「人は得るもので生計を立て、与えるもので人生を築く」これは、ウィンストン・チャーチル（英国の元首相）の言葉だ。終業式では人生100年時代の職業選択の話もしたが、私が考えていることはチャーチルとは順番が逆で、本校が目している「ホスピタリティ」を活かし、人に「思い遣り」を施す仕事で人生を築き、そこで得た賃金で生計を立てる。AIでは代替できない仕事とは、「自分がされて気持ちの良いことを他人に施す」仕事と言い換えてもいいかもしれない。前回号で「相手の無言の声に耳を傾け、その気持ちを推察し、また、言葉を超えて、こちらの温かい気持ちを伝える。相手の立場に立って物事を考え、感じ、共感する」ことが「ホスピタリティ」だと説明したが、「気付く人になる」ことが、この「ホスピタリティ」を磨き、子どもから大人への成長につながるのだらうと私は思っている。